

兵庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業部

卷之三



180

兵庫縣漁業慣行録卷之三 鹹水漁業之部

攝津國武庫郡

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁税ニ關スル事

西新田村

鱒漁業ハ弘化年度舊領主松平遠江守ノ頃運上トシテ
年々三十五錢ヲ納メシカ明治九年海面ヲ借用シ十二
年六月迄使用料金五圓ヲ納メ其後續ヒテ尚其額ヲ納
メタリ

鳴尾村

地曳網漁業ハ享保ノ頃運上トシテ年々銀百五十兩ヲ

納ノ延享三年ニ至リ銀百六十五匁ニ増加ス以降五ヶ
 年或ハ十ヶ年請トシ該年期毎ニ其額ヲ増シ慶應年度
 ハ銀五百三十七匁五分ヲ上納セリ明治維新ヨリ八年
 迄一ヶ年金五圓四十二錢九厘ヲ納メ全九年ヨリ海面
 ヲ拜借シ借用料金年々七圓又其後續ヒテ其金額ヲ納
 ムリ

今津村

天保六年頃以來運上トシテ年々金百疋ヲ又元治元年
 ノ頃ヨリ年々金一圓ヲ浦受税トシテ辻六郎九衛門ニ
 納メ續ヒテ維新ノ際ニ至リシカ明治八年ニ金七十錢
 ト改メリ全九年ヨリ全十二年六月迄海面ヲ借用シ借
 用料金二圓八十錢五厘ヲ納メ爾來尚其額ヲ納メ來レ
 リ

西ノ宮町

寛政元年迄ハ海岸砂濱地訴訟銀 由訴銀理不詳 トシテ年々
 銀二貫八百二十八匁八分ヲ全二年ヨリ文化元年迄漁
 獵運上トシテ年々銀三百五十匁ヲ全二年ヨリ明治九
 年ニ至ル間五ヶ年ヲ一期トシ每期銀三匁宛ヲ増加シ
 納メリ全九年ヨリ海面ヲ借用シ全十二年六月迄借用
 料金年々二圓五十錢ヲ納メシカ其以後續ヒテ尚其金
 額ヲ納メタリ

茅二款

規約及慣例

茅一項

保護ニ關スル事

茅二項

漁業ニ關スル事

茅一節

漁權

西新田村

鰯地引網漁場ハ東ハ道意新田村東境ヨリ西ハ本村西境ニ至ル凡二十二町沖合凡一里以内ニシテ鳴尾村ト入會トス

鳴尾村

鰯地引網漁場ハ東西新田村字丸島ヨリ西今津村境申川ニ至ル三十三町三十四間ノ間沖合ハ一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス但該漁場ハ村内望ミノ者ニ請負金ヲ出サシメテ毎年請負ハスノ例ナリ故ニ該場ハ請負

人漁業ニ熟スル者ノ管理ニ歸ス又其請負金ハ村費(現今快議費)ノ補助ニ充ルノ習慣トス

今津村

鰯地引網漁場ハ東鳴尾村境字申川尻ヨリ西、西ノ宮町界字古川迄六町ノ間沖合へ一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス

西ノ宮町

諸漁場ハ東今津村境字東川ヨリ西菟原郡打出村境字堀切川ニ至ル十七町三十間沖手へ九一里以内ニシテ本村ノ共有トス

茅二節

仲間加入ノ仕来

西ノ宮町

本町内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル者ハ先ツ漁者ノ

承諾ヲ經テ官廳へ出願シ營業スルモノトス

茅三節

他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

鳴尾村

村ノ内外ヲ問ハス何人タリ氏分一金即チ收獲高十分ノ一ヲ漁場請負人へ差出スモノハ漁撈ノ莫業ヲ營ムトヲ得但今津村及村内ノ者ハ收獲代價ノ百分ノ八ヲ收納スルヲ慣例トス

茅四節

販賣ノ仕方

西新田村

鳴尾村 今津村

鰯ハ多ク當村煎屋煎雜魚製造家へ販賣シ又鰯ニ交リタル魚類ハ當村行魚商へ現金ニテ賣渡ス大漁ノ時ハ尼ヶ崎又ハ近隣ヨリ来ル出買船へ現金ヲ以テ販賣ス

西ノ宮町

捕獲ノ小鰯ハ當町煮雜魚業者ニ販賣ス該製造者ハ之ヲ京阪地方ニ輸出ス其味佳美ナルヲ以テ西ノ宮煮雜魚ノ名アリ又章魚小蝦等ノ雜魚類ハ當町市場へ即金ヲ以テ賣渡ス問屋口錢ハ賣價六分ノ割ナリ○出買ト稱シ川邊郡尾ヶ崎地方ヨリ漁舟ニテ来リ捕魚ヲ買入ル者アリ即金ヲ以テ賣渡ス然レ氏僅ニ捕獲高ノ二分ニ過キス

第三項 雜事

西新田村

祝ヒ 漁期ニ際シ漁業ノ手順全ク整フ氏ハ網卸口シト唱へ網持ノ家族及漁夫相集リ御酒ト稱シテ祝宴ヲ開キ又漁季ノ終リニハ網揚ヶト唱へ又ハ離別ト云ヒ雇人等ヲ酒肴又ハ餅等ヲ以テ饗應セルノ舊慣ナリ○大漁ノ時ハ之ヲ祝シテ雇人へ酒肴又ハ手拭ヲ給與ス

ヲ給與ス

雇夫給食 網曳漁夫ニ食事ヲ給スルハ平常三度トス時ニヨリテ夜網ヲ曳ヶハ一二度夜食ヲ與フ飯ノ添ハ大根漬梅干トス又茶ヲ給セス湯又ハ水ヲ以テ之ニ代フ

鳴尾村 今津村

祝ヒ 西新田村ニ全シ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ概テ朝ハ午前四時晝八十一時乃至午後一二時頃夕ハ大抵午後五時乃至八時トス飯ノ添ニハ其日ノ捕獲物ヲ以テシ不漁ノ時ハ野菜物ヲ以テス但之ヲ調理スルニハ醬油味噌ヲ用ヒ又湯及ヒ水ヲ以テ之ニ代用ス

古ハ醬油味噌ヲ用ヒス

祭祀禁忌 漁業者ノ信仰スル神ハ蛭子神及金比羅神

ニシテ漁期中得タル所ノ魚ハ焼物ト稱シ毎朝神棚

ニ献備シテ大漁ヲ祈ル○産忌ニハ一週間休業スル

ノ例ナルモ漁業上支障アルヲ以テ此場合ニハ他ノ

家宅ニ住居スルカ又ハ産婦ト離居シテ尚漁業ヲ営

ムトナセリ

西ノ宮町

祝ヒ 漁期中若シ大漁アリタル片ハ漁祝ヒト稱シ雇

主ヲ始メ雇夫ニ至ル迄揃ヒノ手拭ヲ被リテ相賑ハ

ス 祭祀禁忌 祭典ノ為メ休漁スルハ一年中正五九月曆陰

(祭日八十日トス)ノ三回トス當日ハ雇夫ハ雇主ノ家

ニ集ヒ充分酔ヲ盡シ或ハ海濱或ハ社内ニ於テ角力

ヲ為シ其歡ヲ盡ス其十日ヲ祭日トセシハ蛭子神社

ノ日ニ相當スルヲ以テナリ○死忌及産穢ノ時ハ直

接之ニ關係スル者ノ内一人タケ休業ス

雜件 當町外沿海十三ヶ浦ノ漁村組合ニ於テ海上難

破船アル時ノ取扱方及外國漂流船其他運送荷物取

扱方申合せヲナセリ詳細ハ参考書武庫 郡第一号ニ掲載ス

第三款

犯則違例ノ處分

西ノ宮町

漁業者互ニ漁場ヲ争フノ場合ニ當リ投錨ヲ先キニセ
 シモノ其位置ヲ占ムル慣行ナリ然ルニ後レテ投錨ス
 ルモノ其位置ヲ侵ス下アレハ侵漁者ノ漁具ヲ引揚ケ
 或ハ其上ニ營業ヲ停止セシ下アリ然ルト雖モ陸ヲ距
 ル凡五六町以外海藻ノ生セシ所ヲ過キ投錨スルニア
 ラサレハ此例ニ據ラス

第二章 魚 類

第一款 種 類

第一項 品 名

郡内産出ノ水産物品名尤ノ如シ

玉筋魚

鰯

鱧

沙魚

鯰

蛤

猪螺

鰯

海鰯

鱻魚

鯽

蟹

鰈

ガラサイ

章魚

刀魚

爪貝

光螺

ウボセ

箸鰈

鰻

車蝦

海月

魴

鰯

鰈

鰯

小鯛

小鮎

小鰯

コシナカ鰯

鯧

蝦

手長蛸

アサゴ

アコ

魷魚

海鰻

赤貝

鯖

鯖

青箭魚

サルキン

雑喉

潮吹貝

白魚

ヒラゴ

ヒトテ

セビイタ

鱸

茅二項 大小輕重

鯿

他方ヨリ来集ス其大廿九三尺此量三貫目ニ及ブアリ今津村調

小鰯

生産後三十日ヲ經テ一寸其年九月頃凡二寸位ニ長ス

鱈

大廿二尺餘量目三貫目ニ及フアリ

鱸

他方ヨリ来集ス其大廿三尺量目三貫目ニ及フアリ

茅二款 漁期

茅一項 期節

捕漁採藻ノ期節尤ノ如シ

品名	西新田村		鳴尾村		今津村		西ノ宮町	
	期節	良時季	期節	良時季	期節	良時季	期節	良時季
鰯	自五月至十一月		自四月至九月	九月	自四月至十一月		自四月至十月	
鰺			自五月至十月					
鯉			自十一月至翌年三月					
海鰻			自十月至翌年三月				自九月至十二月	
蛤			自十一月至翌年二月					
鱧			自十月至翌年三月					
鰻			自五月至十月					
蟹			自十一月至翌年二月					

系

兵庫

章魚	刀魚	爪貝	筍貝	光螺	魴	鰆	小鰯	鰯	鯧	手長蛸	海鰻	青背魚	雜喉	白魚	潮吹貝
	十九月											十八月	自七月至十一月		
	自五月至十月	自十一月至翌年二月	自十月至翌年三月	自十一月至翌年二月	自五月至十月	自六月至八月	自十月至翌年三月	自五月至十月	自八月至十月	自十月至翌年三月	自十月至翌年三月	自五月至十月		自十一月至翌年二月	自十一月至翌年二月
													周年		
	自六月至十月						自四月至十一月								

第二項 氣象

雨後温和ナル日力又ハ曇天ニシテ海水淡濁ナル時ハ地
 曳網ノ收利最モ多シ故ニ南風方言ノ日ヲ撰西ノ官町
 ル以下 ○鰈釣ノ者ハ海水温氣ヲ含ミ南、西海ニ水蒸氣立
 ツ日ヲ良トス
 鰯漁ハ五月ヨリ八月迄ヲ最良トス此時季中ニ南風徐々
 トシテ吹ク所ハ鰯多ク近海ニ寄り来ル然レモ北風吹キ
 起ル時ハ他方へ散逸シ不漁トナル又輕風ノ為ノ潮水濁
 ル時ハ却テ良漁ナリ就中霖雨ノ為ハ海水ノ濁ル時大ニ

良シ夏期ノ際暑氣甚シクシテ海水恰モ熱湯ノ如ク暖マ
 ルトアレハ鰯魚ハ沖合へ散去ス故ニ夏日ノ中三十日間
 ハ漁業ヲ休業スルトアリ今津村調査ニ○南方紀伊國加
 太瀬戸ノ方ニ當テ雲現ハレ北方六甲山ニ向ヒテ往ク時
 ハ雨天トナル○巽風ハ漁者ノ最モ患フルモノナリ之ヲ
 ヤマセト云ヒ激浪ヲ起シテ風力極メテ烈シク潮水ヲ陸
 ニ打テ上ケ砂土ヲ吹き或ハ家ヲ潰シ漁舟ヲ流ス等ノ大
 害ヲナス

第三項 群來ノ前兆

鰯群來スル時ハ沖合ニ於テ潮水堆ク起リ或ハ其色赤ク
 ナル氏ハ倍ニ之ヲ色ト云ヒ群來ノ兆トス漁者ハ之ヲ見
 出漁ノ用意ヲナス又鷗ノ沖合ヲ飛行スルトアレハ亦群
 來ノ兆ナリト云フ今津村調査ニヨル

第四項 去來ノ期節及方向

諸魚共ニ其年ノ氣候ニ依テ異同アリト雖モ概テ四月ヲ
 以テ來期トシ十一月ヲ以テ去期トス但前年ノ來期ハ四
 月下旬ニアリシカ十九年ハ六月初旬ニ遷延セリ故ニ其
 去ルトモ亦隨テ遅カリシ蓋シ氣候前年ヨリ後レシニ因
 ルナリ今津村調査ニヨル

第三款 漁場

西新田村

區域 鰯漁場ハ武庫川流末海面寄洲字丸島地先陸ヨ

里許沖トス

水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ所ハ深サ一尋ニノ此所

ヲタフト云ヒ又十尋ノ所ヲ沖ト云フ此水底ハ粘土

ニシテ海藻等生スルナシ

鳴尾村

區域 鰯漁場ハ東、西新田村字丸島ヨリ西、今津村境字

申川ニ至ル三十三町三十四間沖手ハ九一里ノ間ト

ス

水底ノ概狀 海岸ニ接近セシ所ハ深サ一二尺ナリ之

ヨリ沖ノ方深サ三尋ノ所ハ水底砂利ナリ又陸ヲ距

ル三十間ノ所ハ深サ四尋以上アリ水底苔藻ヲ叢生セリ此所ヨリ沖手ニ小鰯ド群集ス尚漸々進ンテ沖ニ出ツレハ七尋以上ノ深サトナリ其水底ハ総テ泥濘ナリ

今津村

區域 鰯漁場ハ東鳴尾村境字申川尻ヨリ西、西ノ宮町

境字古川迄六町沖手へ九一里ノ間トス

潮流 常ニ東西ニ往来シ四季共ニ緩急ナシ然レモ南

風又西風吹ク片ハ潮湧キ来リ激浪ト變スルナリ

之ヲ潮目ト云フ

水底ノ概狀 鳴尾村ニ全シ

西ノ宮町

區域 諸漁場ハ東ハ今津村境字東川ヨリ西菟原郡打

出村境字堀切川ニ至ル十七町三十間又沖手へ九一里ノ間トス

茅四款 入會漁船ノ數

鳴尾村

一 鮪漁場

漁船總數

十四艘
十但一人一乘

明治十九年
六月調查

内

今津村ノ漁船 六艘

西ノ宮町ノ漁船 二艘

備後國ノ漁船 二艘

本村ノ漁船 四艘

茅五款 漁具

茅一項 漁網及釣具等

漁具現數 尤ノ如シ

漁具名	鱒地曳網 數疊	蛤貝卷桁網 全	鱒拵繩 數桶	鱒建網 把數	鱒建網 全	雜魚手線網 數疊
西新田村	二					
鳴尾村	三			一五五	七九	三五
今津村	三					三
西ノ宮町	一五		二〇			三八
合計	二三		二〇	一五五	七九	七六

茅二項 漁船

漁船現數 尤ノ如シ

種別
西新田村
鳴尾村
今津村
西ノ宮町
合計

三間漁船	二間漁船	一間漁船
	田	
二	三三	
六	一〇	一三
二五	三八	四
三三	八五	一七

兵庫縣

第六款 漁法

鰯漁

地曳網 菟原郡ニ全シ

蛤漁

卷桁網 川邊郡蛤アケミ卷桁網ニ全シ

鰈漁

併繩 漁期ニ至レハ漁船一艘ニ二人衆組ミ朝夕二回

使用ス其法ハ先ツ親繩ノ一端ニ小石ヲ付ケ海中へ

沈メ而シテ船ヲ進メ隨テ其繩ヲ伸シテ配置シ一桶

分即チ五百尋盡クレハ他ニ備ヘタル分ノ繩ヲ之ニ

繫キ配置スル一三桶ニ至リテ止ミ炭ニ於テ其末ヨ

リ漸次繰上ケ捕獲スルモノトス餌料ハ小蝦ニシテ

其穀ヲ去リ用エ西ノ宮町調

兵庫縣

鱈漁

建網 菟原郡沙魚漁建網ニ全シ但使用ハ風波荒ラキ

日ヲ良トス嗚尾村調

雜魚漁

手繰網 津名郡ニ全シ

兵庫縣

茅七款 有害漁法

手繰網并ニウタセ網ハ網ノ兩端ニ竹ヲ張リタルヲ以テ
其竹潮水ニ激シテ鳴リ游泳ノ魚類ヲ威シテ去ラシムル
ノ害アリ為メニ年々地引網ニ不幸ヲ與フ西ノ宮町調

兵庫縣

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

水族ノ生産スル期節尤ノ如シ
鳴尾村 今津村
調査ニヨル

品名	鰯	沙魚	鮫	鯉	海鰻	鱸魚	野	蟹	鰈
卵ヲ孕ミタルヲ初 テ捕獲セシ月	四月	四月	六月	六月	四月	九月	四月	四月	六月
卵ヲ孕ミタルヲ最 後ニ捕獲セシ月									
卵ヲ捕獲セシ月	七月	七月	八月	八月	七月	十一月	七月	七月	八月

系

系

刀魚	章魚	鯨	鯨	鯨	了	鮠魚	海鰻	青箭魚	鱈	鯖	蝦雜喉	鯨	鯖	鯨	鯨
六五	六	四	四	六	四	四	六	六	四	六	六	六	六	四	四
月月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
八	十	九	八	七	六	七	六	七	八	七	八	八	八	七	八
月月	月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月	月月

兵 庫 縣

繪殘魚
六
月
八
月

兵 庫 縣

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

西新田村 鳴尾村 今津村
 今ヲ去ル二十餘年前迄ハ常ニ捕漁盛ナリシモ維新後
 ハ漸次不漁且其魚漸ク短小トナリ隨テ漁業振ハサル
 ノ景況ニ至レリ

西ノ宮町

寛政年間ハ漁業頗ル繁盛ナリシカ近年ハ漸次不漁ト
 ナリ漁業衰微ノ景況ナリ
 以上各村漁業ノ概況ヲ記述セリ尚尤表ヲ掲ケテ郡内一
 般ノ狀ヲ示スヘシ

漁業概表

種別	西新田村	鳴尾村	今津村	西ノ宮町	合計
----	------	-----	-----	------	----

漁民 数人	漁船 数艘	繩釣類 数桶	緑網類 全	建網類 全	曳網類 数疊
二	四				二
五二	三五		六〇	二三四	三
一〇〇	二九		三		三
八九	六七	二〇	三八		二五
二四三	一三五	二〇	一〇一	二三四	二二

漁業者ノ種別尤ノ如シ
 茅二款 営業種別

種別	西新田村	鳴尾村	今津村	西ノ官町	合計
鰯地曳網漁者	二	五二	三	五	六二
蛤貝巻桁網漁者		二五			二五
鯨拵網漁者				八	八
鯨建網漁者		一八			一八
鯨建網漁者		一五			一五
雑魚手繰網漁者	二	五二	三	七六	一三一

又漁業ニ関スル營業者ノ種別ヲ擧クレバ尤ノ如シ

種別	西新田村	鳴尾村	今津村	西ノ官町	合計
普通漁者	二	二	一	八九	一四三
雇夫 自村		五〇	五〇		一〇〇

他村

六〇

三〇

三〇

一三〇

備考

雇夫 多ク廣島地方ノモノナリ賃錢ハ一坪九合八
 合七合ト稱シ老練及ニ壯健ノ漁者ニハ一坪次ハ
 九合ト其技倆ニ應シ之ヲ給與ス但し不漁ノ時ハ食
 料ノミヲ與フ西ノ宮町調○漁期中普通漁者ノ役
 スル漁夫ニシテ本村漁夫ノ他ニ尚備後百島村ヨ
 リ出稼スルモノヲ雇入ル其手續ハ例年漁期ニ至
 レハ該地頭取者引連レ来ルノ例ナリ之ヲ期雇ト
 云フ而シテ漁夫到着ノ際雇主ヨリ幾分之前金ヲ
 貸與スルヲアリ漁期中夏日ハ漁獲少ナシ故ニ大
 漁ノ外雇夫ハ陰曆七月十三日頃ヨリ一旦歸郷シ
 八朔陰曆旬ハニ至リ更ニ来ルノ例ナリ雇夫取ルト

口ノ職ハ尤ノ如シ

頭領 網ノ構造ヲ掌ル

「ヤジ」 漁夫ヲ指揮シ専ラ漁業ノトヲ擔當ス

「ニ番ヤジ」 「ヤジ」ヲ補助ス

「平働キ」 頭領及「ヤジ」ノ指揮ヲ受ケ漁業一切ノ

雜事ニ使役セラル

以上雇夫ヲ要スル數ハ漁業ノ多少ニ依リ差異アリト
 釜匠 鰯地曳網一疊ニ付九三十人乃至四十人
 迄トス又手繰網漁ハ一疊ニ付二人或ハ三人トス
 給料ハ概子頭領ハ一ヶ月二圓「ヤジ」ハ一圓八十
 錢「ニ番ヤジ」及「平働キ」ハ各一圓トス食料ハ雇主
 ヨリ之ヲ給與シ若シ大漁ノ年ハ氣付ケト稱シ捕
 漁金ノ幾分ヲ雇夫一統ニ與フルノ例ナリ

今津村 調査ニ

手間取 ルヨ 大漁ノ片雇入ルモノニシテ只捕獲物幾分
 ヲ與ヘ其報酬ニ充ツ之ヲカカズ又ハ舟作ノ至
 下云フ 今津村調 査ニ

兵庫縣漁業慣行録卷之三終